シリーズ 探訪 わが町文化財 その98

石燈籠（いしどうろう）

神社や寺院の境内でよく見かける石燈籠は、明かりを灯して消えないように保護する石製の照明用具です。石燈籠は、献灯の用具として中国から朝鮮半島を経て仏教とともに日本に伝来したと考えられていますが、やがて神社においても造立されるようになりました。また、古くは1基だけ設置していたものが、安土桃山時代以降は2基一対で据え置かれるようになり、江戸時代には数多く造立されるようになります。

町内の石燈籠は、中世以前にさかのぼるものは確認できませんが、今から約300年前の江戸時代の終わり頃から盛んに造立されるようになりました。

石燈籠は、写真のように上から宝珠、笠（かさ）、火袋、中台、竿（さお）、基礎、基壇から成り立っています。宝珠とは願望が思い通りになるという不思議な玉である「如意宝珠（にょいほうじゅ）」のことで、お地蔵さんが手に持っていたり、さまざまな仏教建築にも用いられたりしています。板尾地区の三大神（さんだいじん）社（じゃ）や杉野原地区の河津明神社（かわづみょうじんじゃ）の石燈籠は、宝珠がなく笠が屋根形をしており、町内では珍しい形態です。

火袋は、明かりを灯す重要な部分であり、四角形の火口の他に円や三日月形の窓があけられているものがあります。竿には文字が彫られていることが多く、石燈籠が奉納された年月や関わった人名、先人の祈りなどさまざまな情報を知ることができます。お近くのお寺や神社に立ち寄られた際には、見学してみてはいかがでしょうか。

石燈籠の部位名称

三大神社の石燈籠（高さ 187 ㎝）

●〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野 2018-4
●有田川町役場企画調整課 TEL 0737 - 52 - 2111（代）
●E-mail b.kikakuzaisei@town.aridagawa.lg.jp
●ホームページ URL https://www.town.aridagawa.lg.jp